

登録コード	SD415200	開講年度	2026						
授業題目	野外巡検Ⅰ							担当教員	齋藤 武士 他
英文授業名	Geological ExcursionⅠ							副担当	吉田 孝紀・森 宏・常盤 哲也
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期			対象学年	2年
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目		備考	必修 ※05S以前：1単位
信大コンピテンシー	該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素						⇔	【授業の達成目標】	
	26Sカリ，25Sカリ，24Sカリ，23Sカリ								
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の各分野における専門知識						⇔	・長野県周辺で観察できる地質・岩石などについて，理解し，観察できるようになる。	
	【2023年度以降カリキュラム対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し，その成果を的確に他者に伝える力						⇔	・長野県周辺で観察できる地質・岩石などについて，理解し，観察できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	防災減災								
(3)全学横断特別教育プログラム									
(4)授業の概要	年間4回の日帰り巡検が行われる．テーマに応じて専門の近い教員が野外で指導を行う．この授業では，大学の近接地域で行われる地質調査法1では観察の難しい対象から，長野県およびその周辺に分布し日本列島を代表する地質体を観察する．								
(5)授業のキーワード	信州の自然，フィールド学習，コミュニケーション能力，情報活用力，問題発見・解決能力								
(6)授業計画	1．ガイダンス（4月予定） 2．深成岩と付加体の観察（上高地，5月予定，常盤） 3．活火山の観察（焼岳，7月予定，齋藤） 4．飛騨外縁帯の石灰岩・化石の観察（高山市福地周辺，10月予定，吉田） 5．領家変成岩・三波川変成岩の観察（伊那市高遠周辺，11月予定，森）								
(7)成績評価の方法	毎回の巡検実施後のレポートをもとに評価する．								
(8)成績評価の基準	巡検前後に自主学習を行い，当日の観察記録とともにレポートにまとめた提出物に基づいて成績評価を行う．十分な自主学習，観察地点の地質学的意義，実際の観察記録のいずれもがレポートに十二分に反映されている場合「卓越している」，充分であるが一部に修正や補足が必要な場合「かなり上にある」，ほぼ反映されているが修正や補足が必要な場合は「やや上にある」，かなりの修正と補足を行ってはいじめてレポートの体をなす場合は「その水準にある」，と評価される．								
(9)事前事後学習の内容	年度当初のガイダンスで4回の巡検の地域と目的を解説するので，関連する内容について十分な事前学習を行うこと． また現地での観察のあと，各巡検ごとに課題が出されるので，それに沿った実験・観察を加えてレポートにまとめあげることが必要である．								
(10)履修上の注意	巡検は，通常土曜日もしくは日曜日の1日を使って行われる．予定を示した掲示（あるいはealps）に注意すること． 気象条件によっては，実施日が変更されることがある． 移動手段と経費に関しては，事前に説明を行う．								
(11)質問,相談への対応	全体に関わることについては齋藤が対応する．個々の巡検に関しては，各巡検を担当する教員が対応する． 担当教員のメールアドレスは以下の通り． 齋藤：saito@shinshu-u.ac.jp 森：mori_hiroshi@shinshu-u.ac.jp 吉田：kxyoshid@shinshu-u.ac.jp 常盤：tokiwa@shinshu-u.ac.jp								
【教科書】	各回の担当教員が巡検に必要な資料を用意する．								
【参考書】	日本の地質，中部地方Ⅰ，植村・山田編集（共立出版） 日本地方地質誌，中部地方，日本地質学会編集（朝倉書店）								